

分校だより

卒業式特別号

さよならぐらいで出会は消えない
 いっだって心は一緒だ
 離れていても想っているから
 笑顔と涙で描きあつた日々は
 いつまでも心の居場所だ
 君が今日一人で踏み出す一歩は
 僕らの一歩だ

地域と共に歩む
 大曲農業高等学校太田分校

(TEL) 0187 (88) 1311
 (FAX) 0187 (86) 9035

●三月一日(金)、午前に授賞式・同窓会入会式、午後から卒業証書授与式を執り行いました。今年も同窓会と保護者の方々に見守られながら、無事に卒業生を送り出すことができました。午後の授賞式では堂々と自信に満ちた姿がとも印象的でした。午後の卒業証書授与式では涙ぐむ生徒も…。玄関への道すがら、お互いに感謝を伝える姿にもり泣きしながら、笑顔で校舎をあとにする後ろ姿に向かって「がんばれ第47期卒業生たち……」と

さよならを告げ、新たな世界へ



第47期卒業生14名の新たな旅立ち



三年間の頑張りが報われた瞬間です

卒業証書授与式



送辞

肌寒い日がつづいておりませんが、まわりの雪が解け始め、春を迎えようとして参りました。本日、卒業なされる三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今、皆様はこの太田分校での三年間の生活をどのように感じているのでしょうか。二年前、私たちが入学してきたあの日、新しい友だちや新しい環境とともに不安な気持ちがたくさんありました。しかしながら、先輩方が私たちのことを優しく迎えてくださったおかげで気持ちが少しずつ楽になっていき、時間が進むにつれ、迷いがなくなってきたことを覚えています。

委員会活動や部活動、紙風船作りや全校民謡講座などの行事では見本とあり、さまざまな場面において私たちが引っ張っていただきました。特に数多くある行事の中で一番心に残っている行事があります。それは球技大会です。人数が少ない中、審判の仕事の動きに慣れず、うまく進められなかったことがありました。そのような中でも先輩方は声をかけ合い、お互いをカバーしながら行動していました。

どんなときでも諦めずに最後まで頑張る姿、仲間同士応援し合い、喜びを分かち合う先輩方を目のあたりにし、私たちもいつかこのようになりたいと心の中で思っていました。先輩方は常に私たちを支え、導いてくださいました。それと同時にいつも先頭で行動する姿は常に目標でもありました。そのような皆様それぞれがそれぞれの夢に向かって、社会へ旅立っていくと思うとこれからは少し不安になります。

皆様はこれから新しい生活がスタートします。時には失敗したり、つらく苦しかったりすることと直面することもあるかもしれません。そのような場面に陥ったとしても、この太田分校で身につけた知識や経験がきっと助けになるはずです。これからも強い気持ちで自分の貫いた道を切り開いていってください。太田分校生一同応援しております。

最後になりますが、ご健康とご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。



令和六年三月一日

在校生代表 伊藤 大悟



答辞

開花を待つ桜の蕾の息吹が感じられるこの頃、生き物は躍動し、心躍る季節となりました。本日は、私たち卒業生のためにこのような素晴らしい式を挙げていただき誠にありがとうございます。卒業生を代表してお礼申し上げます。今日、こうして三年生十四名が無事に卒業の日を迎えられたこと、とても嬉しく思います。

三年という年月はあっという間に過ぎ去り、私たち卒業生は、本日、この太田分校を旅立つ日を迎えました。太田分校で過ごした日々はどれも色濃く、楽しかった記憶で溢れかえっています。三年前の四月、いつもと違う制服に身を包み迎えた入学式。大人数の中での堂々とした体育館入場は、これから始まる華やかな高校生活の始まりを知らせてくれたように思っています。太田分校の校門をくぐり、私たちの高校生活がスタートしました。

初めて会うクラスメイトに緊張し、なかなか心を開けなかった一年生。そんな中始まったのが校歌練習でした。応援団の指導の下、声の出し方や歌うときの姿勢まで徹底的に練習しました。声小さかったり、歌詞を忘れてしまったりと失敗の連続で、なかなか前に進めませんでした。しかし、一ヶ月の練習を経て成長することができた私たちは、見違えるほど良くなり、壮行式では存分に成果を発揮することができました。

二年生になった私たちは、委員会活動や部活動で活躍する機会が増えました。最も思い出に残っているのは、やはり修学旅行です。初めて乗る飛行機に感動しながら秋田県を飛び立ちました。奈良での鹿とのふれあい、京都の歴史溢れる町並み、大阪USJでは夢のような時間を体験することができました。バスの中で笑い話や思い出話、宿舎では夜遅くまで友だちと遊んだりしました。帰りの新幹線では思い出の写真を振り返ったり、旅行先で起こった出来事を話したりしながら帰りました。最後の最後まで仲間と楽しく笑った、かけがえのない時間でした。

そして、三年生になり私たちの勝負の時がやってきました。就職活動です。それぞれが進路について真剣に考え、頭を抱える日が続き、不安や焦りが襲う中、大きな支えになってくださったのが先生方でした。

私たちの高校生活を支えてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいですが、いつも優しく寄り添ってくださった先生、時には叱って喝を入れてくださった先生、部活動で一から鍛えてくださった先生、そんな最高の先生方が支えてくださったからこそ、私たちはこの三年間を楽しく過ごすことができました。

そして何より、一番感謝すべき存在は家族です。毎日の送り迎えやお弁当の準備、何から何まで頼りっぱなしでした。小さなことで言い合いになったり、不満をぶつけたりした日もありました。しかし、そんな私たちが傍で見守り、親身になって支えてくれた家族のおかげで、今日、こうして卒業の日を迎えることができました。

長いようであっという間だった三年間。最高の仲間と出会い、毎日楽しく、幸せな時間をともに過ごすことができました。そんな仲間と過ごす日も、今日で最後です。あの和気藹々とした空間が今日で終わる、明日から会う機会が少なくなることを考えると寂しくなります。しかし、楽しい幸せな時間を共に過ごした私たちならきっと、どんな高い壁も乗り越えられるはずですよ。またいつか、この最高の仲間たちと集まり、これまでのような笑い話ができる日を楽しみにしています。

在校生の皆様、私たちは今日までの学びや経験を糧に、これから先を歩んでください。一つ目のお願いは、この太田分校で多くの知識と人との関わりを学んでください。太田分校は地域に寄り添う学校として、地域に根ざした行事が多くあります。学校生活や行事を通して多くの知識を得て、地域の方々と関わりを大切にしてください。二つ目のお願いは、クラスメイトとの時間を大切にしてください。卒業はあっという間にやってきます。二度と戻ることのできない日を私たちは生きています。どうか、クラスメイトとの関わりを大切に過ごしてください。そして、最後のお願いです。この最高の学び舎である太田分校をさらにより良い学校にしてください。これからの皆さんの行動一つが将来の太田分校に大きく関わってきます。私たちの大切な学校をどうか守ってってください。この三つのお願いを在校生に託します。

私たち卒業生は社会という新たな世界へ挑戦します。太田分校で過ごした時間、先生方から教わった知徳、そして、そばで見守ってくれた全ての方々への感謝を胸に、新たな世界へ飛び立ちます。

結びに、皆様のご健康と太田分校のさらなる飛躍に期待し答辞と致します。

令和六年三月一日

卒業生代表 藤原大河



